

下道恵子議員



●平成30年豪雪時の緊急車両の対応について  
●克雪住宅に対する補助について

そのほかの質問

- ・平成30年度の生産調整の取り組みについて
- ・6次産業化について
- ・若年性認知症の支援について
- ・介護ロボットの導入について

一般質問

市内病院等の協力もあり、受入先病院が決まらず搬送できなかったことや、市外の病院への長距離搬送が相次ぐといった事例はなかった。今後も、医療機関や隣接消防機関等との連携を密にし、緊急車両の出場体制を万全にしていきたい。

市外の道路で通行止めや渋滞が発生しており、隣接消防本部からの情報や、県の道路状況アプリを活用するなどして、搬送経路を複数選択しながら活動を行った。

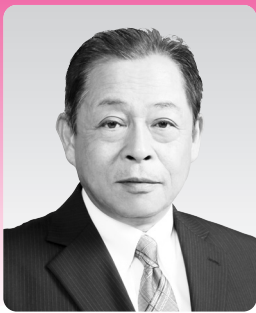
**問** この2月の豪雪は、38豪雪や56豪雪に並ぶ近年にない大雪となった。中部縦貫自動車道が閉鎖になり、幹線道路もなかなか除雪が進まず、福井市内へ行くのにも時間がかかったと聞いている。その間、救急車の出動では、患者の搬送などで問題はなかったか、また、市内の消防車の出動はなかったのか、あつたとしてもその時の道路事情や対応について伺う。

**答** 2月5日から2月26日間の救急出動78件の内、市外への管外搬送は18件、救助出動2件であった。道路状況については、市外の道路で通行止めや渋滞が発生しており、隣接消防本部からの情報や、県の道路状況アプリを活用するなどして、搬送経路を複数選択しながら活動を行った。

**問** 屋根の雪下ろしは高齢者がするには、重労働でとても負担になる。これからは、屋根雪下ろしの必要がない家づくりも考えていくべきと思う。電気・ガス・灯油の熱を使って雪を溶かす「熱融雪システム」や平屋で2m以上積雪しても安全である構造の「耐雪式住宅」、敷地内に落とせるなら、片面を斜面にして雪を自然に落とす「落雪式住宅」など、これらの屋根融雪等のシステムを、新築時やリフォームして取り付ける場合に、一定条件のもと住宅への補助ができないか伺う。

**答** 克雪化を図る住宅の種類として、耐雪型住宅、落雪式住宅、高床式住宅などがあるが、それらに対する補助事業は現在実施していない。このような住宅の建設費が一般的な住宅の建設費と比べてどれくらい割高となるか、また、補助率や補助金額はどのくらいが適正であるのかは、把握していないため今後研究していく。

近藤栄紀議員



●人件費について  
●勝山高校の今後について

そのほかの質問

- ・第2恐竜博物館について
- ・平成30年豪雪について

一般質問

組織体制については、業務内容の精査、統合、廃止等を行うことで、厳しい財政状況の下であっても、住民ニーズを的確に捉え、真に必要で且つより良い住民サービスを提供し、最小限の人員・経費で最大限の効果を得

職員数の適正化に取り組む。

**問** 当市の職員数は、前年度比14人減員の285人。他市に比べ明らかに多いように思うが、今後の人員計画をどのように考えるか。また、組織も明らかに多いが、仕事の内容を精査し組織体制を見直すことがより仕事をしやすくし、人件費の削減にもなると思う。市の考えを伺う。

**答** 人口1万人あたりの職員数と比較すると県内他市と比べ若干多い職員数となっている。ただし、第2次勝山市行財政改革実施計画において、平成32年度までに294名とすることを目標としており、この目標については平成30年度に達成することとなる。今後とも退職者の増加、再任用職員の雇用、政府が検討中である定年延長などの制度改正に的確に対応しつつ、職員数の適正化に取り組む。

**問** 勝山高校の維持発展のため、市はどのように考えるか。また、普通科系高校として勝山高校の魅力を高めるため、進学体制を強化する、思考力、探究力、表現力など幅広く育成することを目的とした探究科コースの新設を要望していただきたいが、市の考えを伺う。

**答** 勝山市における唯一の高校として今後も永く存続し、勝山の子どもの誇れる高校であり続けなければならないと考えている。「探求科」は難関大学への合格を目標として進学体制を強化する「特進クラス」に相当するものである。「科」の設置にはクラスを構成する一定数の生徒が必要であり、現在勝山高校で実施している、難関大学を目指す生徒を対象とした少人数の習熟度別コースは実質的に同様の機能を果たしていることから、今後は、その指導内容や体制の更なる充実が図られるよう、勝山高校に要望していきたい。